

調査・研究終了報告書

研究分野：保健

調査・研究名	がん登録情報等を利用した福岡県のがん対策に向けた課題の検討
研究者名（所属） ※ 〇印：研究代表者	〇中島淳一、西巧、市原祥子、高尾佳子、熊谷博史（企画情報管理課）
本庁関係部・課	保健医療介護部がん感染症疾病対策課
調査・研究期間	令和4年度～5年度（2年間）
調査・研究区分	1. 種類 <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> 共同研究（共同機関名：） <input type="checkbox"/> 受託研究（委託機関名：） 2. 目的 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究
福岡県総合計画	基本方向：誰もが住み慣れたところで働き、長く元気に暮らし、子どもを安心して生み育てることができる 中項目：健康づくり、安心で質の高い医療 小項目：がん、難病対策の推進
ワンヘルス実践6つの柱	柱5 「健康づくり」
ワンヘルス研究の位置づけ	本研究は、今後、がん登録情報を含むワンヘルス統合データベースを活用し、周辺環境等の環境要因データをもとに、がん罹患・死亡との関連性の解析、発がん要因の解明、がん罹患・死亡の低減策の検討を行うという観点から、ワンヘルス研究に位置づけられる。
福岡県環境総合ビジョン（第五次福岡県環境総合基本計画） ※環境関係のみ	柱： テーマ：
外部研究資金	（資金名） <input type="checkbox"/> 採択 <input type="checkbox"/> 申請予定 <input type="checkbox"/> 申請中 <input checked="" type="checkbox"/> 予定なし
キーワード	①がん対策 ②がん登録
研究内容	
<p>1) 背景、目的及び必要性</p> <p>福岡県では、「第3期福岡県がん対策推進計画」の全体目標を、2018-2023年の6年間で75歳未満年齢調整死亡率を10%低減するとしている。人口動態統計における2006～2019年の値を基にしたJoinpoint回帰分析では、この数値目標は達成しつつも、今後の福岡県のがん死亡率は、全国やがん死亡率の低い長野県との差は大きく縮まらないものと予測され、さらなる対策の推進が必要である。</p> <p>このような中、平成28年1月1日施行の“がん登録等の推進に関する法律”に基づく「全国がん登録」開始後、2016年、2017年の本県におけるがん罹患・死亡の状況について整理した結果、本県では肝がん、肺がん、子宮頸がんで、全国よりも年齢調整罹患率・死亡率が高い傾向が明らかとなった。本研究では、福岡県のこれらのがんの死亡率高値の要因について整理し、今後のがん対策に向けた課題について検討することを目的とする。</p>	
<p>2) 概要</p> <p>対象とする肝がん、肺がん、子宮頸がんについて、罹患（予防）、早期発見（検診）、治療（生存）の観点から、現在公開されているがん登録情報をはじめとしたがんに係る調査統計資料、先行研究等について収集・整理することで、福岡県におけるがん死亡率高値の要因、今後のがん対策に向けた課題について検討を行った。</p>	
<p>3) 達成度及び得られた成果</p> <p>【肝がん】</p> <p>肝がんは罹患と死亡の相関が強く（がん罹患ががん死亡につながりやすく）、予防に重点を置いた対策が主となる。福岡県の肝がん罹患率・死亡率は全国に比べ高く、原因として慢性肝炎や肝硬変につながる、B、C型肝炎ウイルスの感染者の多いことが挙げられる。一方、ウイルス感染者の減少、抗ウイルス療法の進歩等もあり、福岡県の肝がん罹患率、死亡率は共に低下し続けている。そこで、Joinpoint回帰分析を行った結果、75歳未満年齢調整死亡率は2018-2023年の期間で男性は約40%、女性は約50%低下すると予測され、2030年頃には、死亡率は全国と同程度まで低下するものと予測された。</p> <p>但し、近年でも福岡県の肝がん罹患率は男女ともに国内で高い水準であるため、ウイルス性肝炎や検査に関する知識の普及と受検、検査陽性者を精密検査や継続的な医療機関受診に繋げるための取り組みは今後も重要であると考えられた。また、近年では飲酒やメタボリックシンドロームなどの非ウイルス性の肝硬変の割合が全体の半数程度まで増加しているとの報告があり、県内でもその状況を把握する必要がある。</p> <p>【肺がん】</p> <p>肺がんは、肝がん同様に罹患と死亡の相関も強いが、診断ステージごとの5年生存率の差が大きく、検診による早期発見も重要ながんである。福岡県の肺がん罹患率、死亡率は徐々に低下してきているが、いずれも男性のほうが低下の度合いが大きかった。</p>	

国民生活基礎調査に基づく福岡県の40歳以上のがん検診受診率は、2019年調査時点で男性は全国の50.1%に対し44.7%、女性は全国の42.0%に対し35.4%と大きく差があった。年齢階級別でも、ほぼすべての階級で全国を下回っていた。

がん発見時の進展度では、限局の割合は2019年症例で全国が35.4%、福岡県が35.7%であり、他の進展度の割合もほぼ変わりなかったことから、現状での全国とのがん死亡率の差は、罹患率の差によるものと考えられた。また、福岡県よりも検診受診率が高く、がん死亡率の低い長野県では、がん発見時の進展度について限局の割合が高いことから、福岡県でも検診により早期がんを多く発見することで、がん死亡率を低下できる可能性が示唆された。

先行研究によれば、近年国内では受動喫煙や女性ホルモンが発がんリスクとなりやすい腺癌や、肺がん罹患に占める女性の割合が増加していることが報告されており、福岡県でも今後、性・組織型別の罹患動向を注視することが重要である。がん検診の受診率向上とともに、受動喫煙対策についても更なる検討が必要であると考えられた。

【子宮がん】

子宮がんは2000年以降、全国的に罹患と死亡が増加しており、罹患率と死亡率の相関が強くなっている状況である。中でも我が国では子宮頸がん罹患の原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を予防するワクチンが、2013年6月から2022年3月まで積極的接種勧奨が中止されていることや検診受診率の低迷が、近年の我が国の罹患率上昇の一因とみられている。福岡県の子宮頸がんの年齢階級別罹患率は全国と比べて幅広い世代で高く、罹患率の差が全国との死亡率の差につながっている状況と考えられた。Joinpoint回帰分析を行った結果、75歳未満年齢調整死亡率は2018-2023年の期間で14.5%上昇すると予測され、今後全国との差がさらに開いていく可能性もある。

検診について、福岡県は全国と比べて受診率が低く、またがん登録情報によれば「領域リンパ節転移」や「隣接臓器浸潤」等の進行がんの割合が高いことも、がん死亡率の高さに影響しているものと考えられた。

厚生労働省は、先の積極的接種勧奨中止期間に接種対象年齢であった1997～2000年度生まれの女性へのキャッチアップ接種を2022年4月から実施しているが、2023年度上期時点で、対象のうち2000-2005年度生まれの女性の接種率は10%未満と報告されている。

先行研究によれば、1994-1999年度生まれのワクチン接種率の高い女性と同等かそれ以下に罹患・死亡相対リスクを低下させるためには、対象年齢を超えた女性に短期間（1年）で多くの（対象者の90%）人にキャッチアップ接種を行う必要があると試算されている。今後はキャッチアップ接種の進捗状況を把握すると併せ、がん検診を強く推奨していくことが重要であると考えられた。

4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

がん罹患から死亡までに係る基礎的統計資料の検証結果を基に、行政による科学的根拠に基づいたがん対策の一助とすることができる。

5) 調査・研究結果の独創性、新規性

これまで明らかにならなかった福岡県のがん罹患の状況について全国がん登録情報を用いて検証した点、がんの罹患から死亡までの自然史を踏まえ、国内や福岡県のがんの現状と課題を広く検証した点について新規性がある。

6) 成果の活用状況

本研究では、部位やがんの特性を踏まえ、調査統計資料や先行研究等の情報を収集・検証した。これは今後他の部位のがんについて行う場合も同様に行っていく必要がある。

がん登録情報については、今後NDBやDPC等と合わせ、各種がんのステージ分類ごとによる治療実態と予後の把握・分析等を行うことにより、福岡県のがんの状況を地域ごとに明らかにできる可能性がある。

7) 当該調査・研究課題に関する発表等

① 行政に対する情報提供

〔令和4年度〕近年の福岡県内のがん死亡状況、将来予測データについて第4期福岡県がん対策推進計画検討のための基礎的資料として提供。

② 県民への情報提供

なし。

③ 学会誌掲載、学会発表

〔学会発表〕

中島淳一（福岡県保健環境研究所）：福岡県のがん死亡の概況，第70回福岡県公衆衛生学会，令和5年5月

中島淳一（福岡県保健環境研究所）：Joinpoint Analysisを用いた福岡県におけるがん死亡トレンドの解析，第70回福岡県公衆衛生学会，令和5年5月

④ その他

なし。

8) 研究経費

令和4年度：経常経費(C経費)【金額：70千円】

令和5年度：経常経費(C経費)【金額：70千円】

9) 備考

がん登録情報については、公表されている資料のみを用いたため、内容によっては男女別やがん組織型別の検証ができなかった。今後は詳細データの利用についても検討する。